

市長の施政方針に対する代表質問

3月定例会では、市長が平成26年度施政方針に基づく各種事業を説明し、それに対し各会派の代表が質問を行いました。

※質問時間は、10分＋会派人数×5分です。

ごみ処理施設・総合病院・財政の見通し

鴻創会(50分)

問 鴻巣・川里地域のごみは、埼玉中部環境保全組合で処理し、吹上地域のごみは、彩北広域清掃組合で処理をしている。同じ市内のごみを処理する場所が違うのは何故かとよく問われる。また、両施設とも老朽化が進み建て替えの時期だと思われる。そして4月から鴻巣行田北本環境資源組合が発足するにあたり、現時点での整備スケジュールについて伺う。

答 平成26年度の鴻巣行田北本環境資源組合の主な事業は、一般廃棄物処理基本計画等の策定、及び熱回収施設等建設候補地の選定の2事業を予定しており平成26、27年度の2カ年で行います。一般的には、ごみ処理施設を建設する場合、一般廃棄物処理基本計画等の計画を策定し、環

境アセスメントの手続きを経る必要がありますであり、用地取得やその他、諸手続きに要する期間、工事期間を見込むと、概ね10年必要と考えています。

問 鴻巣市には、大きな病院がなく、市民の方々は、産科・小児科・高度医療・救急医療・終末期医療などの対応ができる総合病院の建設を希望している。このたび、鴻巣市に総合病院を整備することを検討してくれる法人が出てきているが、総合病院について現状を問う。

答 昨年8月に、一般社団法人上尾中央医科グループ協議会から、総合病院の提案がなされて以降、その概要について、鴻巣市議会をはじめ、鴻巣市医師会、北足立歯科医師会鴻巣支部、鴻巣薬剤師会、鴻巣市自治会連合会役員会、赤見台地区自治会連合会理事会に順次説明を行ってきたところ。また、上尾中央医科グループ協議会からは、これまでに

協議会が予定する病床数、診療科目について提案があり、病床数は300床で内訳は一般病床が220床、ICUや回復期リハビリテーション病棟などが80床となっています。診療科目については、内科、循環器内科、消化器内科、腎臓内科、小児科、産婦人科、外科、整形外科、耳鼻咽喉科、眼科、皮膚科、麻酔科、放射線診断科、リハビリテーション科の14診療科を予定しています。

問 合併特例債の利用期間が5年延びたが、特例債を活用することにより、返済額が増えている中で、財政調整基金及び減債基金についてどのような運営を図っていくのか。

答 財政調整基金は、地方公共団体における年度間の財源の調整などを行うためのもので本市の25年度末は約35億円で、26年度当初予算では13億円の繰入れを計上しており残高は約22億円となります。財政調整基金の適正な残高は標準財政規模の概ね5%から10%といわれ、本市の25年度末見込みでは15・2%で適正と考えます。23年度以降計画的に減債基金への積み立てを毎年2億円以上行い24年度末残高4億392万円25年度末見込額約6億5555万円となっており、27年度末には10億円以上の残高を確保することとしています。将来的な本市の市債の償還にあ

たりましては、財政調整基金の適正な残高を確保しながら、減債基金の残高や活用に十分留意していきます。

「行政は最大のサービス業」の成果と今年度の施策

鴻友会(35分)

問 行政は最大のサービス業とは。

答 これまでの市政運営において、ハード面では3駅の駅前広場の整備をはじめ、3行政拠点の整備、中学校の改築・改修整備、公園や道路の整備など、各分野において、多大な成果をあげていると自負しています。一方、ソフト面では「鴻巣びっくりにひな祭り」や「ここのす花まつり」などのイベントの創設・拡大をはじめ、15歳までの医療費無料化、自治基本条例の制定、適正な職員配置や組織のスリム化による職員数の適正化など、様々な取り組みに心血を注いできました。平成25年度のアナケート結果では、33施策のうち32施策が前年度よりも満足度が向上しており、市民の皆さんから高い評価をいただいているものと考えています。活力のあるまちづくりの1年として、これまで実現することができなかった新ごみ処理施設の建設や総合病院の誘致などの大型事業に積極的に取り組んでいくことと、新たな

ソフト事業の展開として、公民館等の単位で自治会長を対象に課長級職員等による市政報告及び懇談会を開催する「市民が主役のまちづくり地域懇談会事業」を予定しています。

問 総合病院誘致における本市の県への働きかけは。

答 総合病院誘致につきましては、現在、一般社団法人上尾中央医科大学グループ協議会と協議を進めているところで、開設予定は平成30年3月を目途としています。新たに病院を開設する、または増床する場合、第6次埼玉県地域保健医療計画の中で定められている基準病床数の範囲内で行うものとされており、この基準病床数の見直しにあたり、第6次埼玉県地域保健医療計画の変更を要することから、埼玉県議会の議決が必要となる状況となっています。本市は、当該計画期間内の総合病院開設に向け、県や県議会等に対しご支援・ご協力をお願いしていきます。

新年度予算の基本的考え方 地域医療・災害時支援体制整備 公明党(25分)

問 新年度予算編成にあたっての市長の基本的な考え方は。

答 現在、ピークにある合併特例事業など第5次総合振興計画や実施計

画に沿った施策・事業を確実に実施しつつ、緊急度・優先度に基づく事業選択と徹底的な見直し、全庁的な節減努力をした結果、過去最大の積極的な予算編成としました。

問 総合病院誘致により救急医療体制は整備されるが、地域医療との連携や市民の健康意識改革を行わない限り健康は守られず、医療費は必要以上に増大する。市はどう考えるか。

答 救命率向上・効果的な医療の為に総合病院では精密検査・入院治療等を行い、後にかかりつけ医で継続受診する「病診連携」が非常に大切です。「医療資源は公共財」の認識で適正受診の必要性・健康管理等について市民の意識啓発に取り組みます。

問 災害支援体制の取り組みは。

答 個人市民税均等割増額分を財源とし、防災施設整備を行います。防災用自動ポンプ井戸、マンホールトイレ、太陽光パネル付照明灯を小学校に毎年4校ずつ順次整備します。

川里中央公園整備事業及び 広田中央特定土地区画整理事業 かいえんたい(25分)

問 川里地域において、合併時の重点的プロジェクト事業「川里中央公園整備」と住環境整備「広田中央特定土地区画整理事業」の進捗状況及び

26年度以降の計画は。

答 川里中央公園の整備率は、約65%で、テニスコート、多目的グラウンド、野球場、釣り場の弁天池や遊具広場が整備され川里フェスティバルの会場としても親しまれています。平成23年度に基本計画の見直し、24年度に実施設計を行いました。今後、未買収地の購入を計画的に進め、最速で、平成30年度の開設を見込んでいます。

広田中央特定土地区画整理事業の進捗率は、事業費ベースで約74.3%です。26年度は、赤城台共和線の工事、地区内の一部区画道路築造工事、土留工事、ボックスカルバート布設工事を予定しています。物件移転については、建物補償及び立竹木補償2件を予定し、地権者の理解を求めながら補償交渉を進めます。平成32年度完了を目指し、積極的に推進します。

新ごみ処理施設の構想策定を 鴻巣フロンティア(20分)

問 本市の重要施策であるごみ処理施設の建設事業が推進され、4月には鴻巣行田北本環境資源組合が発定するが、施設建設場所、事業の構想策定、事業費は。

答 建設場所は鴻巣市内、一般廃棄物処理基本計画等の策定を平成26年度、27年度の2か年で行う予定であり、27年度以降に施設整備基本構想が策定されると考えています。

事業費は、今後新たな組合において各種計画及び基本構想が策定される中、明らかになってきます。参考までに工事費は、3市のごみ処理広域化勉強会では平成22年度の3市のごみ処理量から推計しています。

新ごみ処理施設の建設 コスモスクラブ(20分)

問 本年4月1日より鴻巣行田北本環境資源組合が発定する。そこで3市の議員有志で構成するごみ処理広域化を考える会から当該施設に係る提言書が3市首長に提出されているが、それに対する見解を問う。

答 鴻巣市としては、行田市、北本市のごみ処理広域化の推進に関する基本合意や協議会で合意した事項に基づいて、引き続き新たな組合で事業を進めていく考えです。提出された提言書については今後の参考にします。

○その他行った質問
・上谷総合運動公園スケートボード場にハーフパイプ場の設置は